

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	いいだ人形劇フェスタ開催事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	教育委員会	課等名	文化会館		包含する細々目	1	10	5	7	13	4		
政策	2 地育力によるこころ豊かななづくり												
施策	27 文化芸術の振興												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等							
		事業期間	S54	年度～	年度								

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値					
	飯田市民、全国の人形劇関係者	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする		
			107844	107000				
	全国の人形劇団数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度					
		2300						
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)					
	観客として、演じる者として、支えるスタッフとして、市民、劇人たちがより多くフェスタに参加する(参加証ワッペンを購入すること。)	人口に対するワッペン購入者数の比率	18目標	11	最終目標	12	最終目標達成年度	
			18実績	11	19目標	12		↑
			23目標		23実績			
		全国の人形劇団数に対するフェスタ参加劇団数の比率	18目標	13	最終目標	15	最終目標達成年度	
18実績			13	19目標	14	↑		
23目標				23実績				

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	日本最大の人形劇の祭典を開催。市内約100会場で300超の人形劇を上演。約300劇団1800人の人形劇人が参加。近年、飯田市民をはじめ各地から2000人を越える人がボランティアスタッフとして参加。平成20年のフェスタ10周年に向けた事業展開の準備。	18年度の実績 大ホール向け大型人形劇の特集により地区外からの観光客を誘致することで観客の層と数を拡大し、総体としてのフェスタ参加者数の増大を図る。 新たに編入された遠山谷の2村における円滑な人形劇フェスタの展開(地元組織の構築、フェスタの基本理念の周知徹底) 世界人形劇フェスティバル実施に向けた調査活動を行う。	上演数	413
19年度計画	東アジア(台湾、韓国)人形劇祭ネットワーク構築に向けた準備。			

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	19,000	19,000
	事業費計(A)	19,000	19,000
人件費	正規職員所要時間	18年度 3,000	19年度 3,000
	臨時職員等所要時間	1,000	1,000
	人件費計(B)	11,803	11,803
	トータルコストA+B	30,803	30,803

特定財源内訳や補足事項	16年度 その他財源:財団法人地域創造「海外人形劇交流事業」
-------------	--------------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民が文化活動を主体的に担う	文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
1979年国際児童年に人形劇カーニバルがスタートした。人形劇の関係者が一堂に集まって上演し、交流したいという声が全国にあったこと。飯田市には300年に及ぶ人形浄瑠璃芝居の伝統があり、現在も伊那谷には4座の伝統人形芝居が活動していること。飯田市が地図の上ではちょうど日本の真ん中に位置し、全国から比較的集まりやすく、また市全体で人形劇のお祭りをするのに、ちょうどいい大きさだったこと。以上などの要件が事業開始時の背景としてあった。	少子化により子どもの数が減少してきている。人形劇カーニバルは1998年に20回をもって終了し、1999年市民主導のイベント「いいだ人形劇フェスタ」として生まれ変わる。2002年以降、協賛団体や賛助会員として多くの企業等も参加してきている。	・素晴らしい取組み。飯田の夏を満喫できた。 ・子どもから大人までよりいいもの、より楽しいものに触れることができて感動した。 ・参加証ワッペン価格に割高感がある。 ・位置のわかりづらい公演会場がある。(地図をわかりやすく) ・公演会場に適した定員設定を。公演会場に冷房の整備を。 ・フェスタを支えるスタッフに感謝。 (上演後のアンケートから抜粋)

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	市街地から遠くはなれている上に、人口規模が小さい遠山2村の合併にともない、従前の地域と同等のサービスレベルを維持するためには、参加証ワッペンの販売努力だけでは到底不可能である。また、合併により従前の地域のサービスレベルを低下させることはできない。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	予算の増額が必要である。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	